

# 私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

## 2014(26)年 週 報

6月15日  
第3聖日  
3356号

「テサロニケ教会の信仰と愛」  
(Iテサロニケ連続講演第11回)

### 聖言

ところが、今テモテがあなたがたのところから私たちのもとに帰って来て、あなたがたの信仰と愛とについて良い知らせをもたらしてくれました。また、あなたがたが、いつも私たちのことを親切に考えていて、私たちがあなた方に会いたいと思うように、あなたがたも、しきりに私たちに会いたがっていることを、知らせてくれました。テサロニケ I 3 : 6

礼拝の恵み⑩ 聖書が示す礼拝の対象  
一、父なる神

① 「真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。」(ヨハネ四ノ二三)

② 聖、義、栄光、光、憐れみ深き父を礼拝する。

③ すべてのものの父を礼拝する

④ 主イエス・キリストの父を礼拝する

⑤ 父の御業のゆえに父を礼拝する

⑥ 父が我らを愛してくださるゆえに礼拝する

A 御父が御子という言い尽せない賜物を下さった

B 御父がキリストにあって我らを選ばれた故に礼拝する

C 御父が恵みによつて救つて下さった故に礼拝する

D 御父が我らを祝して下さった故に礼拝する

E 御父が我らを神の子として下さった故に礼拝する

F 御父が我らに礼拝できるようにして下さい

「礼拝」APギブス著

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話 : F A X (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

[minoru\\_yamamoto@hotmail.co.jp](mailto:minoru_yamamoto@hotmail.co.jp) メール [m7-inoru@ezweb.ne.jp](mailto:m7-inoru@ezweb.ne.jp)

二〇一四年六月八日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「テサロニケ教会の信仰の試練」(「テサロニケ連続講演第十回」)

「このような苦難の中にあっても動揺する者が一人もないようにするためでした。あなたが自身を知っているとおり、私たちはこのような苦難に会うように定められているのです。」

(テサロニケ「三ノ三」)

今日はペンテコステの日です。大麦の初穂をささげて五〇日目つまり七週の祭りです。そのとき二二〇人が二階座敷でお祈りをしていると聖霊が各自の上へ降臨されたのです。そこから教会が誕生したのです。教会の誕生も聖霊によるものであるとともに、教会の建設も聖霊によるのです。聖霊に満たされた聖徒が教会を建設するのです。テサロニケ教会はマケドニアにたてられた教会です。パウロが迫害を受けながら、たどり着いて立てたのです。まだまだ弱く、独り立ちの出来ない、未熟な状態でした。パウロはきがきではありませんでした。偽預言者や教師が信者を惑わそうとしていました。この地方因習の強いことで有名です。偶像礼拝、占い、まじない、性的墮落。パウロは二週間にもわたって講義して救われた魂が与えられた。しかし、敵の妨害にあつてアテネに滞在したが心配でならない。それでテモテをテサロニケに遣わしたのである。彼らの信仰が失せてしまったのではないか。再び偶像を拜んでいるのではないか。イエス様を捨てたのではないか。親が子を思う以上に心配であった。それは巧妙に悪魔が信者をも惑わしているのである。四つの場所に撒かれた種がある。岩地に撒かれた種は直ぐに成長したが、日照りになるとすぐ枯れた。テサロニケの信者は最初はめぐまれても日照り、すなわち、困難が来ると信仰からはなれてしまう。これは、悪魔の思うつぼである。悪魔は信仰したなら、周囲のひととは敵になる。と誘惑してくる。

それとともに、甘い誘惑がある。しかし、これが一番怖い。母の所に毎晩六時に電話がかかる。いまどき、知らないところから電話があると注意するように言われている。しかし、毎日かかってくる親しみを覚える。これが相手の思う壺である。そうしたところから、振込み詐欺に会うのである。また占いの誘惑もある。アスカという歌手が覚せい剤のために逮捕された。占いと覚醒剤は密接な関係がある。パウロは信者が信仰の振込み詐欺に会うのを心配した。それでシラスを残して、テモテを遣わしたのである。

二〇一四年六月二一日午後七時 祈祷会 山本牧師

「エルサレム包囲の日教」(「エゼキエル連続講演第一〇回」)

「あなたは左脇を下にして横たわり、イスラエルの家の咎を自分の身の上に置き。あなたはそこに横たわっている日数だけ彼らの咎を負え。わたしは彼らの咎の日数を年数にして三九〇日とする。その間、あなたはイスラエルの家の咎を負わなければならない。」(エゼキエル四ノ四、五)

エゼキエルが横たわる三九〇日と四〇日と言う期間が正確に何を表すかは分からない。一年を一日と換算して北イスラエルがアッシリヤに滅ぼされて三九〇年後に回復される預言であり、四〇年は南ユダがバビロン捕囚の期間とする。又或る説は、レハブアムによる王国分裂からバビロン解放までの三九〇年を指すという。それがイスラエルの罪の重さを現していることは確かである。私たちは自分の罪を認識することにおいては鈍い者である。私たちは自分のしている悪いことがなかなか分からないし、また気付いても、神が見られるほどにその罪を重く見ず、罪責感がない。当時のイスラエル人もそうであった。彼らは私たちが列王記や歴代誌を読む場合に印象付けられるほどには、

その罪を深刻に考えていなかった。彼らはその罪の重さを知るには、実際にエゼキエルが何百日も横たわり、その重さと苦痛を身を持って示さなければならなかった。私たちは自分の罪の深刻さに鈍感な者である。イエス・キリストが私たちの罪をその身に負われ、十字架上で苦しめられたのを知って、初めてその罪の重さを知るのである。

**韓国永遠の賛美チーム来日**

日時 七月五日（土）～一五日

（火）

人員 一〇名

コンサートの日程

六日（日）七日（月）八日（火）

午後五時～七時

一日（金）大日丘コンサート

午後五時～七時

一四日、一五日福井県コンサート